

# 「広域処理」は必要だが がれき受け入れは福岡市では 安全上の特別な問題がある

日本共産党

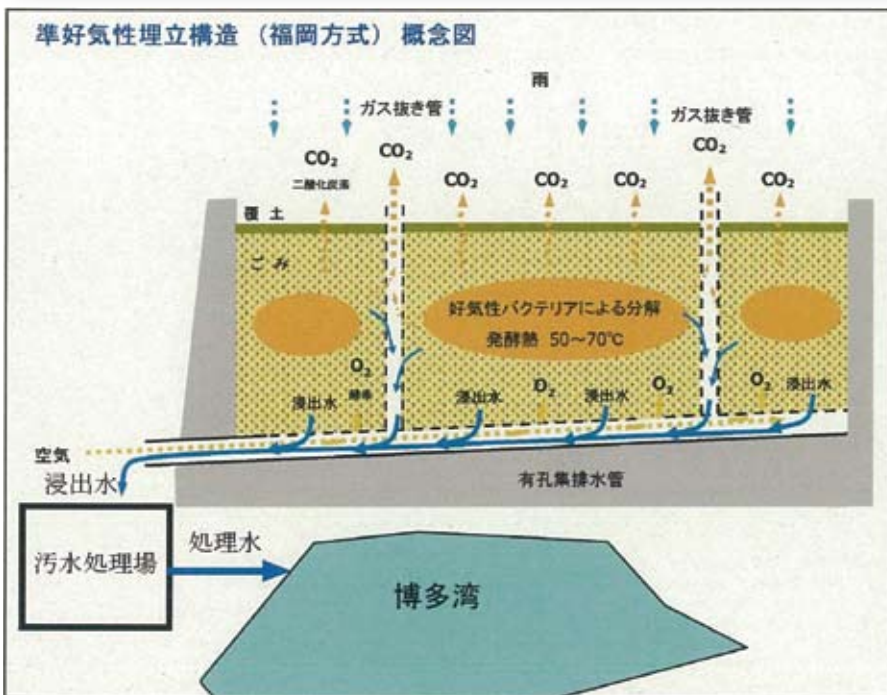
福岡市議会で、自民党などが提案しようとしていた「東日本大震災で発生した災害廃棄物（がれき）の受け入れに関する決議案」について、日本共産党市議団は3月21日、「被災県外の協力を得て『広域処理』を進めることが必要だが、福岡市では、がれき受け入れについて安全上の特別な事情がある」などを理由に賛同できないと表明しました。全会一致での共同提案ができなくなり、自民党は決議案の提出を断念しました。



記者会見する日本共産党市議団  
(福岡市内、3月21日)

自民党  
提案の  
決議案に賛同できず

- ①福岡市の独自の最終処分場施設では放射性物質はとりのぞけない
- ②閉鎖性水域である博多湾に流れ出てホットスポットになる可能性



いずれも  
福岡市環境局  
提供資料より

宮本団長、中山いくみ幹事長が記者会見し、「市の独自の方式による最終処分場施設では放射性セシウムは除去できず、その技術も確立されていない」「セシウムを含んだ浸出水が閉鎖性水域である博多湾に流出した場合、海底の泥にホットスポット的に集積する可能性があるなど、市民の理解を得ることはできない」と指摘しました。

宮本団長は「がれき問題は引き続き、議会として市民の声をしっかり反映させて議論していく必要がある」と語りました。

国が示す埋立方法（下図）は、焼却灰と水がなるべく接触しないこととされています。しかし「福岡方式」（上図）は、焼却灰を雨水と空気に接触させることによって廃棄物の分解・安定化を促進させる方式。処分場から水が流れ出す際に污水处理場で有害物質等が除去されますが、放射性セシウムを除去することはできず、博多湾に流れ込むことになります。

## 福岡市議会ニュース

2012年3月号外 福岡市中央区天神 1-8-1  
電話 092-711-4734  
ホームページ <http://www.jcp-fukuoka.jp>  
発行/日本共産党福岡市議団